（二十日夕刊）

磐城新聞

休刊 大祭 第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
發行所 福島縣平町字町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

石城地方のマルクシストを論撃す（上）

平町 小西虎雄

（A）正統派社會主義に就いて

マルクスの有名なる資本制發展論を大畧のぶれば「資本制經濟組織にあつては競爭の結果資本制企業は資本制以前の生産法を壓倒し大企業家は小企業家を併合し大資本家は小資本家を打破しかくして天下は遂に最大經濟團体の手に歸し社會の富力は少數の富豪の手に集積すると同時に勞働者はますく窮乏貧苦のうちに沈む。しかも資本制企業の生産品の販路は大部分これを勞働者の間に求めざるべからざるが故に企業家が勞働者に僅少の賃銀を仕拂ふて之を苦しむるは實は自己の商品の販路を縮少して自己の資本の收益を減少する所以である。而して利益の減少すると共に資本家は更にその生産高を增加し勞働賃銀を引き下げて利益を得んとはかるが故にますく販路の不足を告げて恐慌を起しその恐慌の度數も程度もいよいよ頻繁激烈を可へ遂に資本制の維持全く不加能なるに至る。恰もよし資本制の發展は各種の生産組織を日に月に社會化しつゝあるが故に一朝その維持不能なるに至る時は之を個人企業家の手より社會の管理に移し以て社會主義的社會を成就すべきである。

之まさに掠奪の掠奪へーグル式に說いて「否定の否定」に外ならず、故に社會主義なるものは決して一部人士の空想にあらずして實は經濟組織の發展にともなひ當然生れきたるべきものである。即ち社會主義論は一個の理想論にあらずして嚴然たる學理である」の如し。

以上の理論の發明にたいし從來空漠なる倫理を基礎とした社會主義は非常に滿足を感じて所謂科學的社會主義なる言を彼等は無上の誇を持つて標榜した。

しかるに歷史の示す所によればA財産家の數は減じなければならぬのに却つて增加した。B社會的富力の非常な增加は單に減少しゆく大資本家の獨占に歸せずしてますます增加する資本家によつて享けられた。（C）勞働者階級はいよいよ貧困に陷らねばならなかつた運命を變じて徐々にしかしながら堅實に向上しつゝある。（D）大經營に併合せらるべしと豫期せられたる中に經營は決して其の地歩を失はず經營組織の階級性は依然として保持せられた（E）而して資本制經濟組織の崩壞の象徵と目せられたる恐慌はますます減少し又微弱となり資本制企業は自ら其の販路をつくつて販路の不足に苦しまないのである此の故にマルクスの豫言（?）にもとづいてその一字一劃に忠實なる正統マルキストは如何にして自らの主義の破綻を繕はんとするか修正派の首領ベルンシュタインは此の有樣を叙して曰く「たとへて言はベマルクスはその存在を發見した足場の骨組の內部に於て立派な建物を築くにあたつて足場の構造が前提した條件と矛盾せざる限りは嚴格に科學的建築法に從ふけれどその足場か之に從ふをゆるさなくなると全く之を無視し又は廻避せる建築師の如くである。彼は足場が建築法を制限するときには足場を變更して正しき釣合を犧牲に供するを顧みず以てその建物の生命を全くその足場に賴らしむるに至らしめたのである」と。いみじくもたとへたといふべきであらう。

（B）唯物史觀──生産力に就いて

マルクスの社會主義の根據はむしろ剩餘價値論にはあらずして唯物史觀論に存する（1）「果てもなく復雜なる全社會的發展は生産力換言せば物質的生産力の發展に依て決せらるる」とはマルクスの唯物史觀の根本思想である。

（2）しからば生産力とは何ぞや?。その意義についてマルクスの定義を檢討するのであらう。しかるにマルクスはその意義について何ら充分なる定義を與へず諸種の場合に於て之を異なれる意味に使用したのである（C）「一切の生産要具中最も大なる生産力は革命的階級それ自身である。

─哲學の貧困─

※明日の吉凶※

新暦十月廿一日　舊暦九月廿六日

▲一白 次第に順調の日なれど金談緣談面白からず▲二黑 何事も面白く順よく運び行く日常業尤も吉▲三碧 內を調へば外おのづから順に走るべし失物注意▲四綠 過分の望みを起さず常業を勵めば進展あり▲五黃 小資を以て巨利を得る日移轉動土等も吉▲六白 横道に走りて失敗し易き日萬事手控か安全▲七赤 機運叫ならず進むも退くも不自由を感ずる日▲八白 榮達する日氣心の緩まぬ樣一致して勵むべし▲九紫 學業の根抵に動搖を來す日愼重に考慮せよ

講談

（166）

女の品々

高橋掬太郎創作　布施半八郎彈畫

昨日石室の外で立ち聞きした第二の怪人は敵か味方か解らなかつたがその一夜は何事もなく明けたそしてその日の正午頃から山を下りて城下へ買物に出かけたのであつた白晝なので天狗の假面は冠らない普通の旅の武士のように野袴を短く穿き草鞋を結び熊谷笠を冠りしかし萬一の用意に天狗の假面は風呂敷包に包んで腰につけ、買物の用意の大きな風呂敷を肩から掛けて背負ふた大小を落し差し黑骨の鐵扇を右手に握つて歩く姿を見て誰もこれが每夜のように往來の武士を斬つて捨てる怪人であらうとは氣の付く筈がなかつた

忠太郎は一軒の小間物商ふ店に入つた、それは千世姫のために髮の道具を買ふ爲めであつた

「許せよ」

忠太郎は笠を冠つた儘で入つた彼はなるべく人に顏を見られることを避けようとするのであつた。

「へい、いらつしやいまし」

と、亭主は愛想よく相手が武士だけに粗相のないやうにと、敷物に煙草盆をすゝめた

「あの何を御覧に入れませうか」

と頭を下げ注文を問ふた

「女の髮の物が少し欲しいのぢやが………」

と言つたが、忠太郎は些が氣まりが惡かつた

鬼とも引つ組むような彼であつたが女の髮の物などは買つたことがないので樣子か判らなかつた

「へゐあの御婦人のたくしものでございますか、かしこまりました、してどのやうなものがよろしうございませうか」

成程かみの物と云つただけでは解らない櫛とかかんざしとか品の名を云はねば判る筈がない

「うむどのようなものがよろしいか、身共にはよう判らないがはて女のかみの物と云へばどの樣な品々が必要であらうか?」

買ふ方でさへ判らない忠太郎は千世姫が髮の道具を失つて不自由らしいのに氣がついて默つて買つて行かうと思つたのであつたが女の髮の物にはどんな物が必要なのが判らなかつた

「さあ、お髮の物と申していろ／\ございますが何か土産にでもいたしたのでございますか」

「うむ、みやげと云ふのではないが實は身共の妹に何か喜ぶようなものが買ふてやりたいのぢや」

「たや左樣でござりまするか、それはお思ひやりの深いことでして御妹御樣はたしか幾才位でございますか?」

亭主は妹思ひなのを感心した樣に云つて年頃を問ふた

「十七、八ぢや」

「左樣でございますか、定めしお羞しい盛りでございませう、ではこの樣なのは如何でございませう」

と亭主は年頃に相應した櫛や、かんざし、鹿の兒の樣な物を取り出して見せた

「女が髮を結ぶ時に使ふ道具も一揃ひ欲しいのぢや、油のやうなものも………」

「へい、かしこまりました」

亭主は梳櫛や香油、びんつけなどを取り出した

「もしお妹御樣のお喜びになるやうなものでございましたら美しい半襟や扱帶の樣なものもございまするが如何でございませうか──」

亭主は商ひにかしこくいろ／\とすゝめた

「半襟か、それもよからう見せてもらひたい」

と忠太郎は買ふべき品物をいろ／\と選んだ

「今日は………」

そこへ近所の者らしい商人風の男が一人入つて來た

日活松竹優秀映畫公開
プログラム

學生ロマンス　窓　神田の下宿　全七卷
根岸東一郎 主演　佐藤圓治　德川良子 助演
△碧空に高鳴るバットの響、輝かしいサウンド─學生時代の思出懷しの校歌、それは古びた日記を開いて見よ………

林長二郎入社第二回作オールスターキヤスト
劍俠捕物　お孃吉三　全十卷
△情けの太鼓……冬枯れのみぞれ雪……哀戀の雄憐れ乙女は戀に殉じ骨肉の刄の露と消へ行くれ霜を抱いてお孃吉三の魂は遠く天界に去る……哀戀俠賊史

◇週間朝日所載大日活大作監督伊藤大輔………
大河內傳次郎 主演　葛木香一　澤村春子 助演
捕物劍戟悲譚　流轉　十四卷
△武士として世の荒波と鬪ひ劍爭も、涙笑も……共に人の心の奥底より泌み出る眞摯なる態度をもつて人の世の姿を描ける「修羅王」を凌ぐ折紙付の大傑作……

十月廿日ヨリ
市川右太工門　野獸　來週上映
土曜日曜 學生デー
平館　電 六六四

宮內省御用達
ヒゲタ醬油
九升樽詰　二リツトル壜詰
銚子醬油株式會社
平町田町
特約店 廣瀨支店
電話 五四番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
（百）佐藤材木店
常磐線平町 新川町
電話 三三五番

不思議な滋強靈液
養命酒
肺結核、肺炎カタル、ロクマク、性的不能、神經衰弱、不眠性、貧血症、婦人病等の特異靈劑なり、其偉効に實驗者は驚く賣行きの增大するを與て其眞價を立證せらる、惱み苦しむる人々の一大福音なり
此際是非御試用を切に勸む
定價 一、五〇　二、〇〇
代理店 平町五丁目角 山野邊藥局

耳鼻咽喉科專門
入院隨時（自炊の便あり）
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

登錄商標
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番 釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二二番
振替東京六八三三二番

日々皆樣の御贔負に酬ゆる爲め左記の通り大々的勉强仕り候是非引續き御愛顧の程御願申上候
記
梅　參圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御酒御料理三品）
松　五圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御料理五品）
櫻　七圓也（二人樣デモ差支アリマセン 藝妓、車賃往復 御料理七品）
期間十二月末日マデ
〔以上現金ニ限ル〕
割烹 ときわ
松ケ岡公園池ノ端
電 二二六番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

十月十五日ヨリ廿五日迄
冬衣大賣出し
新舘陳列營業大擴張＝商品豊富
御祝儀物一式江戸褄京染金二拾圓ヨリ
本秋の新柄モスリン着尺階上陳列仕候
間是非御來觀の程希上候
たつさめ特價品
ニコ／\大島 壹圓　別珍足袋 二十五錢（一萬足限り）
三井別染正紺縞 壹圓五拾錢　白キヤラコ 二十錢（五千足限り）
布團縞 七拾五錢　黑朱子 三十五錢（五千足限り）
本かへき羽織裏 壹圓六拾錢
着尺モスリン 參圓八拾錢
外に破格品山の如し
平町三丁目
三井呉服店
電話 三八番

檢事の論告を駁し 豫審判事を難詰
辯護人極力無罪を主張
五人殺し第三回公判

内郷村白水の五人殺犯人鈴木治八郎(四九)にかゝわる第三回公判は既報の如く昨十九日午後一時から千葉裁判長、小野村、石坂兩判事陪席窪田檢事立會塚崎(東京)安藤(平)兩辯護士被告治八郎列席の上開廷された、此の日此の大事件が

如何に裁れるかの成行を見んとする人々は午前十時頃から詰かけ特に傍聽券八十枚を發行したが收容し切れず洩れ殘つた群衆は公判廷の周圍に人垣を造り公判廷附近の立木には時ならぬ人の實をならし奇觀と未曾有の大混雜を示し、午後一時千葉裁判長徐ろに開廷の旨を宣するや安藤辯護士立つて被告治八郎のために熱辯を振ひ無罪を主張し更らに治八郎が

收監後は一切の接見を禁止したのは新刑新法の法理にもどり不當に辯護權を侵害したるものであると述べて豫審判事を攻擊し引いて刑事事件の權威として知られた塚崎氏立つて先ず斯る大兇暴の犯行をなしたるものは當然死刑たるべきものであるが、犯人が何人たるを問はず此の點は檢事の求刑に對しては贊意を表するものであるが被告治八郎に於けるが如きは一として確實な證據もなく、一として理論的に出發してなかつた檢事の論告に對しては飽くまで承服出來得ない

と劈頭檢事に槍を付けて滿場廷を唸らせ立板に水を流すが如き名論を以つて檢事の十數項に亘つた明細な論告に對し理論的に此れを辯駁し約三時間半に亘つて詳細な辯論を試みたが今同辯護士の論告に對する辯駁の要點は

一、即ち唯一の物的證據として注目されてゐる治八郎の投棄したと言はれてゐる提灯の如きは發見まで十數日間に八日雨が降つてゐながら何等濡れた形跡もない點から見て警察署が造り上げたものであらう

一、衣類に附着した血痕の如き一點は痔ノ出血に依り他の一點は相當古き血痕である事即ち石川博士の鑑定に依る物質並に眞犯人なれば當時の狀況から推して多くの血痕が附着してゐなければならない點

一、ヒサが一となりのたゞ伯父さんが斧をもつて來た」と口走つたと言ふ事は何等依るべき點なく加ふるにヒサは當時昏睡狀態に陷り當時意識のあつたと言ふ論告は檢事の臨檢調書と相反してゐる點

一、性的に何等の不滿のなかつた事實

等檢事の論告を完膚なきまでに辯駁し或は大審院の判決例或は大岡名裁判例等を舉げて治八郎の無罪は當然であると結論して辯論を終り閉廷したが判決の言渡しは來る廿六日午前十時と決定した

四倉降灰の被害民大會
氣勢を舉ぐ

石城郡四倉町磐城セメント會社四ツ倉工業所附近の四ツ倉町及び大浦村の村民は毎年收穫期になると降灰問題を持ち出し降灰の賠償問題に付き騷いでゐるが今年も收穫期となつて降灰の被害があるのを發見し會社に交渉を重ねることゝなつたが、會社としても數十萬圓を投じて降灰收取機を据付け、更に附近に試驗田を設けてあるので、假に此の要求に應ずるやうなことはあるまいと言はれてゐるが、被害農民は去る十五日大浦村上新田、最勝院に被害民大會を開いて氣勢を舉げたが此の事件の成行きは頗る興味を以て見られてゐる

平校運動會
來月一日盛大に

平町第二小學校では來る十一月二日全國体育デーをトして秋季大運動會を開催する筈

海軍兵入團

平町今年度の海軍機關兵志願七軒町一二甲高與三郎(三〇)君は十二月一日横須海兵團に入團する筈

少年庭球大會出場選手

	好間校	小川校	赤井校	平第一校
前衛	遠藤末好	大森又平	平岡藤茂	古畑三男
後衛	遠藤常正	高木廣美	佐藤淺雄	小田眞也
前衛	柏原歲松	大平喜三	藁谷正己	大坪正
後衛	伊藤正次	鈴木五郎	吉田不二男	伊藤勇

川前や勿來の跡は今が紅葉の盛り
日曜日邊りの人出に
平町昨今の秋色

石城地方の秋は正に酣である、澄切つた空に赤蜻蛉が飛んでゐる、庭には秋草が……ものを象徴するかのやうにコスモスが咲亂れて居る「未だ醒す池塘春草の夢、階前の梧葉已に秋聲」と

詩人 を嘆じさせた様に、春と夏とは早過ぎて秋も早さなつた、スポーツに、散策に、讀書に、あらゆる趣味を活躍させるには申分のない期節になつて來た、大野村白岩の名物松茸狩も終りを告げて、紅葉狩のプログラムを組んで居る散策家が非常に多い、夏井溪谷、勿來の關趾等が郡内ばかりでなく紅葉狩には屈指の場所で、殊に夏井溪谷には十六、十七の兩日日曜祭日には相當の人出があつて漸く紅葉し出した楓等を眺め秋の一日を樂しく過ごした人が多い、今月末頃が恰度紅葉の盛りで常盤木の間に眞紅に燃え立つ紅葉が映ゆ岩をかんで流れる夏井の溪谷に姿をうつす自然の美を

觀た 時は詩人ならずとも「山間紅葉を焚いて酒を暖め」たいやうな氣にも誘はれる事であらう、夏井溪谷、勿來の關趾等では觀楓客を優待すべく種々準備をなす由で、今月末あたりは人出で賑ふことであらうと云はれてゐる

鐵北一帶を荒した 怪盜久治今曉遂に逮捕
植竹氏外殆んど全戸を襲ふ
罪の裡に女がある

平町城山方面を中心に鐵道以北一帶に亘り去月初旬頃から毎夜の如く現れる出沒巧みな怪盜があり住民は何れも恟々として慄ね平署でも約一ケ月餘連夜各所に刑事を張り込ませて犯人捜査に努めてゐた事既報の如くであるが其の後に怪盜の

跳梁一層 繁しく流石刑事連を手古摺らしてゐた折柄今廿日午前三時頃八幡小路を密行中の柴崎刑事が八幡神社境内に人影を見付け追跡し同社裏手の籔中で件の男を引捕え本署に引致嚴重取調べた處此奴は飯野村大字下荒川字久世原丹野久治(三二)と稱し頑强にも口を閉ざして一言も吐かなかつたが遂に包み切れず午前九時一切の犯行を自白した即ち久治は去月十日夜城山元磐中校長植竹源太郎氏宅を

襲ひ現金 五圓外數點を窃取したのを皮切りに前後三十餘回に亘り城山、四軒町、柳町、仲間町、胡摩澤、八幡小路等に亘つて一夜に五軒も荒し廻り現金三百餘圓貴金屬衣類數百點を窃取し各れも品物は入質して市内のカフエー、南町の飲食店等で遊興に費消してゐたものでなほ伊藤司法主任が自動車を飛ばし自宅に隱しておいた贓品を押收引きつゞき取調べ中

罪の動機は 美貌が仇
久治の身分

怪賊久治の身分に付取調べると久治は數ケ月前まで靜岡縣富士製絲の職工を勤め徴兵檢査のため歸鄕してゐた久治は男でさへ惚れ〴〵する好男子で七月中旬頃平町の某カフエーで飲食した折女給菅原ハル(二六假名)から戀を囁れたのが病付きとなり毎夜自宅から金を持出しては

美貌を幸 ひにカフエーの女給や酌婦等と戲れてゐたが何時か金に不自由を感ずる樣になり遂に巧みな怪盜となり終つたのであるが茲に面白いのは植竹源太郎氏宅が襲れたとの報に接し青田刑事部長が急行した際植竹氏に出した名刺を久治が二回目に同家を襲つた際金品と共に窃取し此の名刺に情婦の名を書入れ所持してゐたため事情を知らない係官が青田部長も見掛けに依らない粋筋があるものだ呆れ返り青田部長も飛んだ

濡衣を着 せられテレ實際であるが久治は自宅から毎夜自轉車を飛ばして平町に來たり活動其の他で時間を消し深夜になるのを待つて八幡神社附近に自轉車をかくし置き荒し廻つてゐたものであると

目茶くに敗けた白煉瓦爭議團
遂ひに泣きを入れる
會社側益々强硬

石城郡湯本町品川白煉瓦會社の勞働爭議は既報の如く爭議團の氣勢一向に擧がらず全く平隱であり會社側に於ても經過樂觀し罷業職工が飽迄爭議を繼續する場合は他から職工を雇入れて營業を繼續する旨を發表し取締の警察官も全く手持無沙汰の有樣であるが罷業團側ではさきに誠首者の歸條件復職その他數ケ條の要求を湯本工場長まで提出したが全部拒絶されその後も如何なる要求もこれを拒絶すると會社側から威嚇され取り付く島もなく止むなく職工代表若松安三郎外九名の委員は上京

本社を訪 ひ直接伊藤專務にさきに提出した條件の交渉を開始することゝなり十八日午後上京した、尙同會社赤井工場職工同樣怠業中であつたが會社では十九日靜岡縣から職工十數名を雇入れ作業を開始したが爲に怠業中の磐工は急に統一を缺き復職を願ひ出づるものも出る有樣で漸く罷業

[illegible]足並に崩れかゝつた

勿來海岸で 修學生慘死
死体に疑問

水戸市尋常高等科生徒七百名は去る十三日宮田校長以下の教員に引率され平町に修學旅行に赴き十四日勿來關址を見學の後神谷三次郎の長男高等一年生勉(一四)の姿が見へないので極力搜査中十四日朝附近八幡神社の境内に外套が遺棄してあるのを發見したので同地の靑年團の應援を得て搜索の結果數丈の崖下波打際に死体となつて横たはつてゐるのを發見所轄署の検視を受けたが水は一滴ものんでゐず疑問の死としてその筋で活動を開始した

内郷農產品評
廿一日小學校内で

内郷村農會並に同村果樹組合では來る廿一日同村小學校に於いて一般作物並に梨果品評會を開催する筈で審査長は稻田農試場長以下郡農會神尾大山兩技師神谷分場小塙技手に決定した

八十近の老婆が 自動車に轢倒さる
けさ五丁目の街路で
道路通行御用心

平町字胡摩澤居住清原タケ(七六)は今廿日午前八時半頃所用あつて平町五丁目街路を通行中突然四丁目方面から疾走して來た秋田縣秋田市生れ當時湯本町居住磐城炭礦自動車運轉手田澤倉吉(二八)が運轉中の發電所の炭殼運搬用貨物自動車の車輪に觸れ頭部足部其の他に數ケ所の擦過傷を受けて昏倒したので直ちに附近遠藤病院に擔込み手當を加へてゐるが平署では田澤を召喚目下嚴重な取調を續けてゐるが過失傷害として起訴されるらしい

鈴木縣議同志 選擧懇親會
廿二日尼子で

縣會議員鈴木辰三郎氏の選擧に當り目的行動を共にした同志の懇親會を來る二十二日午後三時より平町松ケ岡公園尼子亭に於て開催することゝなつたが會費金二圓で出席希望者は平町南町殖産合同株式會社内發起人まで申込まれたいと

貯金宣傳映畫
平局で準備中

平郵便局及び町役場が協力して愛國貯金の趣旨による一錢貯金の勸誘に就ては既報したが尙之れが徹底的普及を圖る筈で本月二十六日頃貯金及簡易保險宣傳の活動寫眞及講演會を開催する事となり準備中である

平署刑事異動

平警察署の老練刑事として惡黨共から鬼の様に恐れられてゐた川上誠之助刑事は今般部長に昇進し高田署に轉任したが後任は四つ倉署の猪狩勇次郎刑事で今十九日來任した

白井遠平翁傳記(五)
—私の秘藏書中から—
小野務平

明治十九年福島縣菊多、磐城、磐前郡長に任せらる茲に於てか翁が多年の抱負たる殖産興業の政策は將に實行の緒に就かんとするに當り、偶々藩士族授産金として政府より金一萬圓を下附せらる、然るに今之を士族各自の自由なる處分に委せんか、忽ち雲散霧消して折角の府の恩惠も寸功なきに終るを慮り之を資本として平町に製糸工場設立の計劃を立てたり

是れ蓋し蠶糸業は本邦重要輸出品の一に居り、而して我が福島縣は蠶業縣として全國に冠たるも而も信達二郡の一局部に止り磐城地方の如き未だ甚だ幼稚の域にあるを以て大いに桑園栽培を奬勵し飼育法の改善を圖り等しく蠶糸業の發展を企圖せる際なりしを以て此の計劃ある所以なり

然るに目前の小利に汲々たる士族輩は或は之に反對の意見を抱きたるものなきにあらざりしも、結局多數の贊成者ありて遂に翁の計劃の如く製糸工場の設立を見るに至りたり、其の熱心にして自己の所信を實行するに於て努めたりと云ふべし、其の他漁業の改良、農業の奬勵等翁の施設にして大いに見るべきもの少しとせず

斯くの如くして道路の開修は畧ば其工を竣へ蠶糸業の發達、漁業の改良等漸く其の緒に就きたるも顧みて交通狀態に至ては鐵道は更なり、未だ電信も架設なし之れを政府の施設に任すときは其の架設を見るは猶ほ七八年の後ならず然るに世途の進步は斯くの如き緩慢を許さずとなし翁は全力を盡して之が速成に努力し政府當局に相謀り遂に三春より其の線を延長し、平町に電信局を設け、通信を開始するに至りたり、地方の人々其の便に驚嘆せり

△海軍擴張を主張

明治二十三年福島縣西白河郡長に轉任す、同年帝國憲法を實施せられ衆議院議員の總選擧を行はるゝに際し郡長の職を辭し福島縣第五區の候補者として名譽の榮冠は遂に翁の頭上に落ちたり、而して翁の第一議會に立つや自由、改進の兩黨は共に政府反對の態度を取り聯合の力を以て猛烈に政府を攻擊し事毎に政府提出案に反對し多數の勢を以て國防上一日も緩ふすべからざる海軍擴張案をも否決するに至れり

翁は固より眼中黨派なく唯國家あるのみ、多數黨に反對して海軍擴張案贊成の演説を爲したり、然れども否決せられ、衆議院は遂に解散の運命を見るに至れり

創業三十周年紀念賣出し中
御後援を賜り候御禮として
特賣
トンカツレツ
メンチカツレツ
ライスカレー
各十五錢
其他相應じて格安
松茸フライ一品三十錢
十月一日ヨリ相始申候
洋式宴會仕出し
平町田町
一の井
電話一六七番

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話六五〇番

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

片濱自動車運轉
平、高久、豊間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二一七番 一四二番 御三人以上はお迎ひに參上致します
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木 片濱自動車商會